

令和五年三月二十三日 信者心の基勉強会 仕事編

神 示

運命^{こころ}実体^{こころ}で回るこの世にあつて

人間は 奉仕の心を身に付け 「生きる」ことが必要

奉仕の心は 和心^{わこころ}育つ家庭に身を置くことで 芽吹いてゆく

信者に申す

家族で「教え」を学び

「真理」で関わる家庭を 家族で築く努力を重ねる

家族の運命^{こころ}は重なり 実体は愛心^{あふこころ}に染まってゆく

「教え」が 家族に関心を持たせ 会話の絶えない家庭をつくる

万人・万物に 温かい関心^{こころ}で触れる 奉仕の心が育まれてゆく

仕事は 生活を支える労働と 捉えてはいけない

奉仕の心が身に付くことで

人間は 人・物との出会いを生かし合い

互いの運命を重ね 支え 補い合つて 成果を上げる

社会で 会社で 学校で 地域で 家庭で

全ての出会いが生かされる

今日^{いま}を生きる環境に不満があれば

「教え」に生きて 「実体」を修正すべし

神示「真理」が信者の心に気付きを与え

奉仕の心に生きる悟りを引き出す

奉仕の心に生きるところに 仕事の成果が上がる